

令和2年度
事業計画

社会福祉法人 七葉会
特別養護老人ホーム
菅田心愛の里

【菅田心愛の里 基本理念】

和顔愛語賛嘆

私達はおだやかな顔 やさしい言葉で人をたたえ、入居者・ご家族、そして全ての人々の笑顔のため、明日に繋がる笑顔のために支援を行います。

【運営方針】

1. 健全経営の確保
2. 働き甲斐のある職場作り
3. 全ての入居者に安全・安心、そして出来るだけ自由に。

入居者本位の介護サービスに徹し、入居者・家族・全ての方の笑顔のために支援をする

4. 社会・地域貢献

スローガン

「挨拶の励行と、コミュニケーション、そして、一人一人の得意分野を生かし、100+ α を」

1年度は、経営・運営も計画通り順調に推移した。2年度は、この流れを止めることなく進んでいく。2年度は厨房職員も心愛の一員となり、職員数も100名を超えることとなった。この100名がワンチームになるためには、まずは職員同士が気持ちよく挨拶を交わし、お互いを知り、円滑なコミュニケーションを取ることから始まる。また、一人一人が通常の業務だけではなく、得意分野を施設運営に活かしていくことにより、100名+ α になり、更に飛躍していくこととなる。2年度は、組織として大きなパワーアップを図っていく。

施設目標

1 健全経営の確保 (management satisfaction)

① 1日の平均稼働人数 117名

平均稼働人数は、29年度116.3名、30年度は114.9名、1年度は116.6名と上昇したが、目標の117名を達成することが出来なかった。再度26年度の117.1名を再度目標とする。2年度こそは、1人でも多くの方を支援するため、117名以上の目標を達成する。

② 営業利益率20%以上（横浜市でトップ）を目指す

横浜市の特養では、26年から5年続けて、約3割の施設が赤字に陥った。（当施設は10年連続黒字）赤字はイコール社会資源を有効に活用して頂けていないだけでなく、適切なケアを提供できていない証である。当施設では、1年度は、営業利益率は20%を超え、横浜市ではTOPとなっていると予想される（全国平均1.6%）。2年度も適正な収入、支出・収益を上げ、適切なケアが出来る財務体制を維持し続けていく。

③ 新規加算の取得

加算の取得は、質の高いサービスを提供している証であり、1年度は精神科医加算を取得した。（年間100万増）2年度も新しい加算を取得する。

④ 経費の見直し

30年度は、清掃員を直接雇用（年270万削減）、近隣施設とおむつを共同購入（年150万削減）し、1年度は電力会社の変更により年50万円の経費の削減を図った。2年度も更なる経費の削減に努める。

2 働き甲斐のある職場作り (employee satisfaction)

① 介護職員人員の体制確保

平成29年度より、常勤職員42名（2ユニット7名×6）以上の体制、看介護1.9:1以上の体制を維持し続けている。（1年度は1.8:1台）今後も適切な介護を提供できる人員を確保する。また介護職員平均年収は、419万円と高水準であり、この給与体系を維持し、労働意欲の向上に努める。

② 社員の採用

2年度介護職の採用は、新卒2名（リクナビ1名・紹介1名）と東部1名、職員紹介2名であった。今後も離職者は1~3名と見積もると、毎年新卒3名は確保していきたい。1年度には求人用パンフレットを作成し、ホームページもリニューアルした。2年度は福祉専門学校や大学の実習受入れ先に選定されるように営業を掛け、心愛の魅力を発信し、新卒採用を強化する。

③ 職員の定着化

全国の介護職の離職率は17.7%との統計が出ているが、当施設の介護職の離職率は、29年度4.2%、30年度4.2%、1年度も4.2%（全職種は3.4%→3.4%→3.1%と安定している。今後も、研修や福利厚生（1年度は社員向けにハマフレンドに加入）等を充実させる。

④ 社内研修の充実

29年度に、TSPチームが発足し、研修体系の構築化が始まった。1年度も様々な研修を行い、職員一人一人の成長が伺えた。2年度も引続き研修・資格取得を支援する。

⑤ ワークライフバランス

職員一人一人の働き方の多様性を受容し、ワークライフバランスを実現する。

⑥ 職員の交流・コミュニケーションの強化

職員紹介冊子等を作成したり、お互いを知り、同世代間やフロアー・課を跨ぐ交流を深めるために、懇親会やチームを含め、様々な交流をする場を設ける。

⑦ ルールの徹底と方向性の統一

施設での決まり事を職員全員が遵守する。また、施設の取組や方向性を理解し、行動を共にするよう、導いていく。(人事考課に反映させる)

⑧ 挨拶の励行

コミュニケーションの基本は、挨拶である。入居者・ご家族だけではなく、職員同士、業者の方にも、自ら元気良く挨拶をする。

3 全ての入居者に安全・安心、そして自由に。入居者本位の介護サービスに徹し、入居者・家族・全ての方の笑顔のために支援する。(customer satisfaction)

① 入居者本意のサービスの提供

ユニットケアの原点は、介護が必要になっても、ごく普通に生活を営むことであり、すなわち入居者が今まで営んでいた在宅での生活に、可能な限り近づけ、利用者の意思と自己決定を最大限尊重した個別ケアを実現し、入居者の更なる満足度を上げていく。

② 24 生活シートの実践

1 年度は、24 生活シートを活用し、入居者の必要に応じてサポートするための一人一人の暮らしの情報を職員が共有し、介護者による差のない介護が出来るような支援を進めた。2 年度は、更に進めていく。

③ 入居者の自由度拡大

24 時間のエレベーター開放、日中帯の施設内施設開放、日中帯の 3F バルコニー開放を実施してきたが、2 年度も更なる入居者の自由度拡大に努める。

④ レクリエーションの充実

1 年度も 170 本以上のレクリエーションの企画が提出され、実行された。月 1 回の書道・絵手紙・折り紙・園芸・フラダンス・ハートフルカフェ等の定期的なレクリエーションの継続、また、個別の外出の頻度も更に増やし、年 1 回の貸切バスを利用しての日帰りツアーも継続し、入居者に、非日常を感じて頂いた。2 年度も入居者の笑顔の為に更なるレクリエーションの充実を図る。

⑤ 家族への情報提供

1 年度は採用パンフレットの作成、ホームページをリニューアル、案内看板を設置する等、心愛の里の魅力を発信した。2 年度は施設パンフレットをリニューアルする。また 2 年度のブログは、209 回アップし、アクセス数は、4 万件（前年度より 5,000 件増）であった。月 1 回の広報誌及び一筆箋の内容も充実させ、ご家族に施設・利用者の状況を発信し安心に繋げる

4 社会・地域貢献 (social satisfaction)

① 地域との連携

1 年度は生活困窮者就労訓練事業で 3 名の方を受入れし、3 名とも新しい会社へ就職し社会復帰された。2 年度は、地域の方を心愛の里のイベントに参加して頂けるよう情報発信をし、地域社会の一員としての自覚を持ち、地域における社会福祉活動を支える拠点として、地域住民や関係諸機関との連携を深める。

② 研修生・実習生の受入

1 年度は横浜市新入社員や大学生（教職課程）、高等養護学校生徒の実習を受入れた。2 年度も実習の受入れも進めていく。

③ アフリカの子供達への給食支援

29 年度より、給食 1 食 20 円を、アフリカの子供達への給食の支援に参画し、1 年度も計 7,537 食（前年度より 800 食増）の支援を行った。2 年度も引続き実施する。

介護課目標

①職員 1 人ひとりのスキルアップ

- ・職員 1 人ひとりが自ら学び・知ろうとする姿勢を持って、知識や技術をアップさせるため外部研修へ年 1 回以上行く。

(10 年以上の職員が増え様々な研修に行き尽くした感がある介護課です。

介護福祉士資格取得率 正社員 83% 非常勤 41%となっています。

いつまでも学びの心を忘れないようにしましょう。)

②24 生活シート

- ・24 生活シートに基づいた記録
- ・24 生活シートを確認しながら(モニタリングしながら)ケア記録の入力が行なえる様にする。

(令和元年度より研修を入れ 24 シート作成はほぼ完成しているが、ユニットでの一覧は一部のみ。2 年度では一覧し、24 生活記録、24 生活チェック記録をシートに基づいて記録して行く。)

③ルールの徹底

- ・菅田心愛の里の職員として、施設内で決められたルールを遵守する。

1 階フロアー

【Aユニット】

- ① 日々の記録(関わり・コミュニケーション内容・気づき・様子)などを 1 日を通し必ず 10 名記録していく様にする。

【Bユニット】

- ①基本的な SS の対応を徹底し、忘れ物、紛失、落葉をゼロにする。

【Cユニット】

- ①ヒヤリハットの活用とそれによりヒヤリハット事案及び事故の件数を減らす。

(ねらい)

- ・ヒヤリハットを放置したままにせず、有用に生かすことができる。
- ・ヒヤリハットの重要性、活用方法を理解する事ができる。

(方法)

- ・ヒヤリハットへの理解を深められる場を設ける。
- ・ヒヤリハット発生時に内容以外に必要な事項(対策方法等)は何かを考える。
- ・ヒヤリハットのスタート(ヒヤリハット確認)とゴール(対策の定着)を明確にする。

2 階フロアー

【Aユニット】

- ①連絡ノートだけではなく、普段より職員間で話す機会を多く持ち、気になったこと、分からない事などを相談し、注意し合える関係作りを行う。

- ②24H シートの作成更新を行うなかで、入居者様のニーズを確認し、情報収集をする。情報の共有を図り、入居者様により良い生活を送って頂く。

- ・24H シートに慣れるように、分からないことはお互いに教え合いながら進めていく。

- ③入居者様、ご家族様、職員が気持ち良く過ごせるよう、思いやり、気配りに配慮する。また、入居者様が過ごしやすいように、生活の場として環境を整える。

【Bユニット】

- ①ユニット職員全体でお互いを高め合える関係作りに努め、職員間の結束力の向上を図る。
- ②入居者様の日々の変化に着眼し、それに伴ったケアを行う様に努める。
- ③どの様な入居者様も積極的に受け入れ、「また心愛の里に来たい。」と思って頂ける様なケア、接遇に努める。

【Cユニット】

- ① 24シートの作成・更新
- ② ニーズに沿ったケアを行う
- ③ 情報の共有化
 - ・新規入居者様の24シート作成、及び更新に取り組み、24シートを活用していく。
 - 個別ケアを行う為、入居者様一人ひとりのニーズに沿えるよう、入居者様との信頼関係を築きコミュニケーションを図る、又信頼関係を築く事で多くの情報を引き出せるように取り組む。
 - 引き出した情報【ニーズ】を職員間で共有する。

【Dユニット】

- ① 個別ケアの実施
 - ・職員1人1人が入居者様の特性を理解し、ニーズを把握した上で個別ケアを実施、入居者様が不安なく安心した生活を送れるよう支援する。
 - ・日常的ケアだけでなく、入居者様の個性を活かした生活を提案する事でより多くの笑顔と幸せを感じて頂けるよう支援する。
- ②24生活シートの新規作成及び更新を行う。
 - ・新規入居者様の生活を知る為に職員はアセスメントを実施する。
 - ・職員はケアプランを把握し、24生活シートの作成及び更新を行う。
- ③情報の共有化
 - ・職員同士、情報の共有等のコミュニケーションを怠らない事でケアの均一化を図る。

【Eユニット】

和顔愛語賛嘆という理念に対し2Eユニットでは下記のユニット目標を策定した。

- ①楽しい仕事をする
- ②開かれたユニットである
- ③孤立しない
 - ・この目標は中位の目標であり下位の目標はあえて設けず、職員個々が考え日常の業務の中から実行、評価していくこととした。年齢や性別、立場や経験年数など様々な考え方、価値観があると考えられる為、その時、その場面で職員個々が「何が出来るのか、どうして行きたいのか」考える機会を設けた。その事でユニット目標を実現ないしは施設理念に基づいたユニット運営に繋がると考える。

3階フロアー

【Bユニット】

- ①入居者一人一人の状況や希望に寄り添います。
 - ・出来る事を活かして楽しみをもって日々の生活を暮らせるように支援します。
 - ・業務効率化をはかり、入居者へ関わる時間

【Cユニット】

- ①個々の知識を高め、チームの結束力を向上させる。
 - ・個々のスキルの向上と人間関係の構築。
- ②職員間のコミュニケーションの機会を増やし、円滑な関係を築いていく。

- ・リーダーを中心に1人1人が責任を持ち、積極的に行動する。又、報告、相談しやすい雰囲気をつくるようにしたい。
- ③ケアの統一とケアの質を向上させ、その人らしい生活の支援を行う。
- ・24 生活シートの完成、定期的なユニット会議開催でケアの見直しと、継続を行い多職種との連携を図る。

【D ユニット】

- ①入居者様、ご家族様と円滑なコミュニケーションをとり、信頼関係をさらに深める
- ②職員同士で細目に情報共有を行い、統一したケアに努める。

【E ユニット】

- ①自分の家族や、自分自身が入居しても良いと思える介護を意識し日々の業務に取り組む。
- ②認知症の様々な症状に対し、臨機応変な対応ができるように意識を持って業務に取り組む。
- ③気持ちの良い言葉使いを心掛ける。

看護課 目標

- ①入居者様の健康と快適な生活を送るためのケアと医療行為・内服管理の実施。
- ②チームケアの一員として各専門職との連携を取り協働する。
- ③個人の死生観に合せ、最期まで生活のサポートを続ける。
- ④専門職としての誇りを持ち、新しい知識の向上に努める。

サービス課 目標

- ①社会福祉従事者の専門職としての自覚と誇りとプロ意識を持ち、常に専門知識と技術の向上に努め、利用者・家族との良い人間関係を築く。
- ②各専門職が、お互い情報を共有し、協力し合い、利用者のQOL向上に努める。
- ③多くの方のご利用を勧めるため、更なるサービスの向上に努め、支持獲得に努める。
- ④各課・フロアー・ユニットとの協力体制を強固にし、利用者がよりよい生活を営めるよう支援する。
- ⑤地域の方に情報を発信し、地域との交流を進め、地域に愛される施設を目指す。
- ⑥仕事の効率化を考え、定時退社を目標とする。
- ⑦清掃・厨房もサービス課の一員となり、交流を深め、お互い協力をする。
- ⑧こころ、しんあいとの連携を図り、入居者の安寧と児童の成長・発達に寄与する。

【介護支援専門員】

- ①介護保険法に則った仕事を確実に行う。
 - ・三か月に一度、必ずモニタリングを実施する。
 - ・本人に著しい状態の変化が見られたらケアプランの見直しや区分変更の申請を行う。
 - ・ケアプランを作成した場合は新たにサービスを開始する月の前月までに家族に説明を行い署名と捺印を頂いておく。
- ②入居者が施設での生活で体調は安定して精神的にも満足できるように支援して行く。
 - ・本人と家族のニーズをしっかりと聞き取り本人らしい生活ができるようにケアプランを作成する。
 - ・本人のできる事に着目しQOLの向上を目指す。
 - ・身体能力の低下を防ぎ現状維持に努める。

【生活相談員】

- ①入居稼働率 1日 117名以上の支援
- ②本入居者常時 102名以上の確保
 - ・毎月3名以上の待機者を確保し、常時102名以上の本入居者在籍状態を維持することで、稼働率の安定を図る。
- ③幅広いショートステイ利用者の受け入れ
 - ・地域の身元引受人のいない方等の依頼も検討相談の上、積極的に受け入れていく。また居宅のケアマネや区役所ケースワーカー等の担当者と協力しながら成功事例を増やし、社会福祉法人として地域貢献に努める。
- ④接遇の向上
 - ・本入居、ショートステイ利用者の最初の窓口として、施設の顔として好感を持って頂けるように立ち振る舞いを意識する。

【管理栄養士】

- ①個々の栄養リスクを把握し、高リスク対象者や状態低下の早期発見、及び多職種へ発信する。
- ②各職種と協働し、個人に合った栄養ケアの提供を行う。
- ③入居者様や職員の声を厨房職員と共有し、食事の改善に努める。

【調理員】

- ①報告・連絡・相談を密に行う。
- ②衛生管理を徹底し、食中毒や異物混入を防ぐ。
- ③介護現場との情報共有を行い、スムーズな食事提供につなげる。

【機能訓練指導員】

- ①体操以外のレクリエーションを検討、実施する
- ②他職種と密に連携し具体的な生活リハビリに取り組んでいく
- ③目に見える ADL 向上を目指していく

【事務員】

- ①書類の適切な取扱
- ②整理整頓を行い、効率よく仕事ができるようにする。
- ③処理・管理の徹底を図る
- ④他部署の職員が業務をスムーズに出来るよう環境を整える。

【運転手】

- ①高齢者に安心、リラックスして乗車頂く為に、速度変化の少ない優しく、丁寧な運転を目指す。
- ②快適に過ごして頂く為に、車両の内外は常に清潔、綺麗に保つ。
- ③車両は動く広告塔なので、常に他人の目に晒されていることを自覚し、施設の名を貶めることのないよう、法律を守り安全運転をする。

【宿直員】

- ①夜間の緊急時対応を迅速・丁寧に行う。

【清掃員】

- ①入居者・ご家族・職員等、施設内にいる全ての方が、気持ちよく過ごして頂けるよう施設の環境美化に努める。